

オオルリ (*Cyanoptila cyanomelana*)

キビタキ (*Ficedula narcissina*)

識別マニュアル

平成21年3月

環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護業務室

I はじめに

オオルリ *Cyanoptila cyanomelana* とキビタキ *Ficedula narcissina* は、日本では夏鳥で、主に東南アジアで越冬する。日本では、両種ともその姿かたちと鳴き声から飼い鳥として人気があり、コマドリやミヤマホオジロとともに「和鳥四品」の一つに挙げられていた（山階, 1941）。

現在は、鳥獣保護法により、オオルリ、キビタキの愛がん飼養のための捕獲は禁止されているが、違法捕獲した個体をペットショップ等で販売したり、飼養されている事例が毎年みられる。

両種とも長年にわたって飼うのは簡単でない。飼われている個体のほとんどは雄で生後1年未満の個体が多い。そのため、オオルリとキビタキの両種では、齢の識別が違法飼養と違法飼養の取締りに有効である。

本マニュアルは両種の亜種、性、齢の識別マニュアルで、特に齢の識別に重点をおいて作成したものである。

II オオルリ *Cyanoptila cyanomelana* の分布と亜種

オオルリは夏鳥としてアムール、ウスリー、中国北東部から朝鮮半島、南千島および日本で繁殖し、主に海南島、台湾、フィリピン、ボルネオ、インドシナ、マレーシアで越冬する（Dement'ev and Gladkov, 1954; Vaurie, 1959; ネチャエフ・藤巻, 1994; 図1）。本種は南千島、日本、韓国で繁殖する基亜種オオルリ *C. c. cyanomelana*、およびアムール、ウスリー、中国北東部、北朝鮮で繁殖する亜種チョウセンオオルリ *C. c. cumatilis* の2亜種に分けられている（Watson, 1986; Dickinson, 2003; 図1）。基亜種オオルリはオーストラリアの北西部沿岸とクリスマス島からも11月と12月に迷鳥として記録されており（Higgins, *et al.*, 2006）、亜種チョウセンオオルリは日本からも迷鳥として鹿児島県の黒島から記録されたことがある（茂田, 2003）。

韓国では亜種チョウセンオオルリが旅鳥として渡りの時期に通過することが知られている。韓国で繁殖するオオルリの亜種は基亜種オオルリとされているが（Watson, 1986; Dickinson）、確実に基亜種オオルリであるかについてはまだ、検討が必要であり、亜種チョウセンオオルリあるいは基亜種オオルリと亜種チョウセンオオルリとの中間である可能性もある。

オオルリの両亜種の繁殖分布と越冬分布の範囲はまだ、不明な点が多く、とくに越冬分布については亜種が特定されていないことが多い。

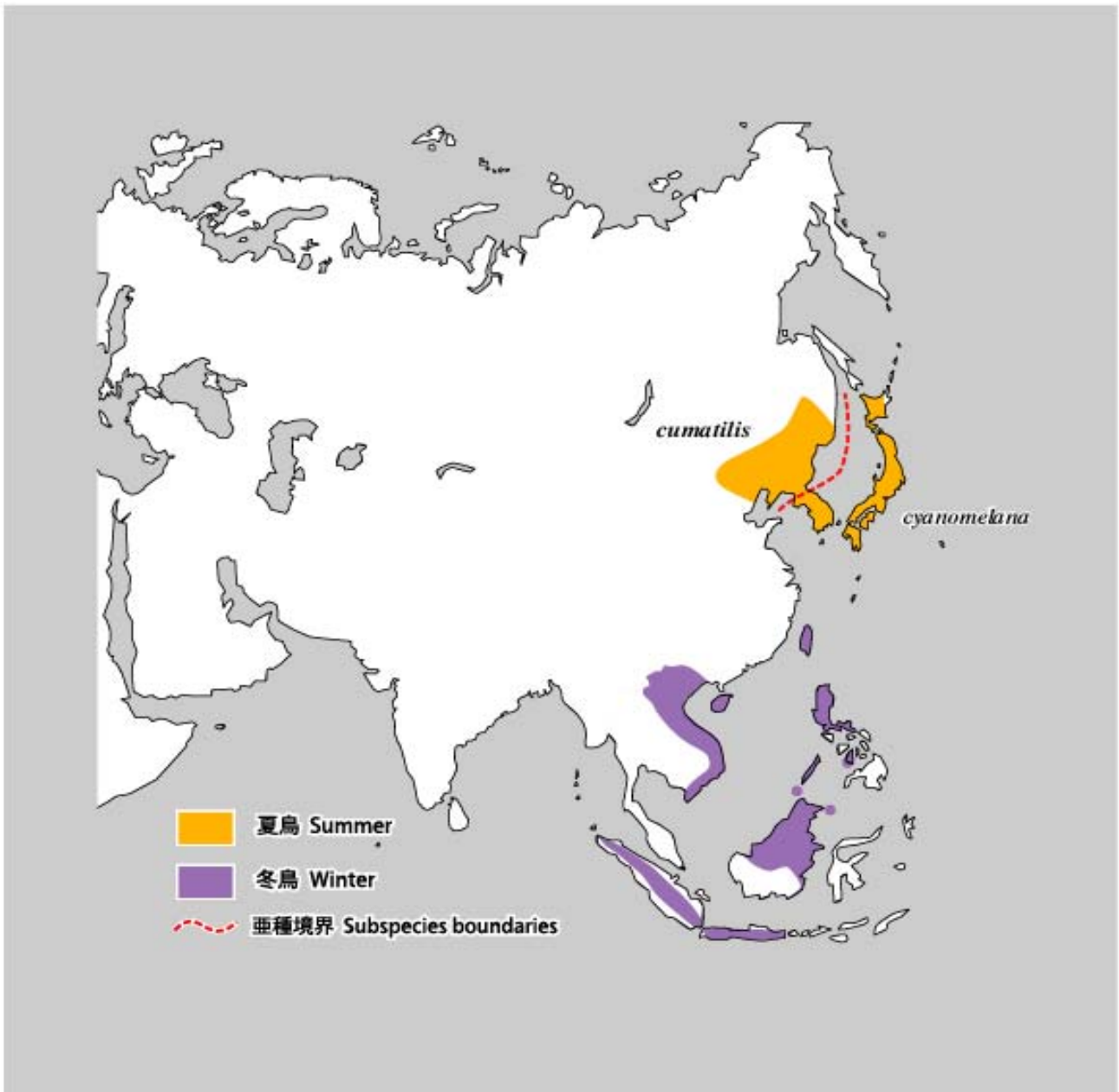


図1. オオルリ *Cyanoptila cyanomelana* の分布

Ⅲ オオルリの亜種の識別

亜種オオルリの雄成鳥の体の上面は紫色を帯びた光沢のある青色で、下面は白色、顔から胸、脇にかけて黒色で、外側尾羽の基部に白斑がある。第1回冬羽の雄は、成鳥の雌に似たオリーブ褐色をしているが、腰、上尾筒、肩羽、小雨覆・中雨覆・大雨覆および三列風切が成鳥の雄に似た青色になる。第1回夏羽の雄は、成鳥の雄に似るが、風切、小翼羽、初列雨覆、尾羽は幼羽のままである。雌は上面がオリーブ褐色で、尾羽には赤褐色味があり、体の下面は淡褐色で、腹は白い。

亜種チョウセンオオルリの成鳥と第1回夏羽の雄は、基亜種オオルリのように後頸と背が紫色を帯びず、上面の青色が淡色で緑色を帯び、喉に緑色光沢があることで基亜種オオルリと異なっている。亜種チョウセンオオルリの雄の背には不明瞭な細い軸斑がある個体がある。雌では両亜種の識別は難しいが、亜種チョウセンオオルリの雌は基亜種オオルリの雌より全体にやや淡色である。

IV オオルリの性の識別

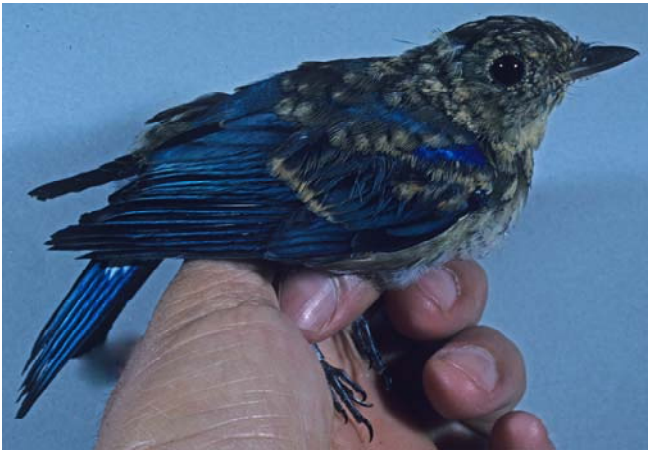
性の識別は、両亜種とも成鳥羽だけでなく幼羽でも可能である。雌では、稀れに成鳥で小雨覆、中雨覆、大雨覆および尾に青色を帯びる個体があるものの、通常は齢に関わらず、大雨覆と尾に青色はない。雄では、大雨覆に青色があり、尾が淡い青色または青色である。

オオルリでは飼い鳥とされるのは、雄だけであり、雌が飼われることはほとんどない。

V オオルリの齢の識別

幼羽は、全身オリーブ色を帯びた褐色で、淡褐色の縦斑があり、雄では翼、背から尾が青い。雌雄とも幼羽から第1回冬羽、第1回冬羽から第1回夏羽へは、体羽と小雨覆、中雨覆、および大雨覆と三列風切の一部だけを換羽する部分換羽であるため、初列風切と次列風切、尾羽、および中雨覆、大雨覆、および下雨覆に幼羽が残っているかどうかに着目することで、第1回冬羽と第1回夏羽の鳥だけでなく、第2回冬羽への換羽が終了するまでの生まれた翌年の夏の約1歳までは、齢の識別が可能である。幼羽の初列風切と次列風切、三列風切、尾羽、および中雨覆、大雨覆、および下雨覆は成鳥羽より淡色で、三列風切、小雨覆、中雨覆と大雨覆の羽縁に黄褐色（バフ色）の斑があることで識別できる（写真参照）。

なお、冬羽から夏羽への換羽は幼鳥だけでなく成鳥も幼鳥と同様に部分換羽であるが、成鳥の換羽の範囲は幼鳥よりわずかなようである。尾羽は一部の抜けた尾羽を除き、成鳥、幼鳥とも冬羽への換羽においてのみ換羽し、更新される。



雄・幼羽 Male Juvenile



雌・幼羽 Female Juvenile



雄・幼羽 Male Juvenile



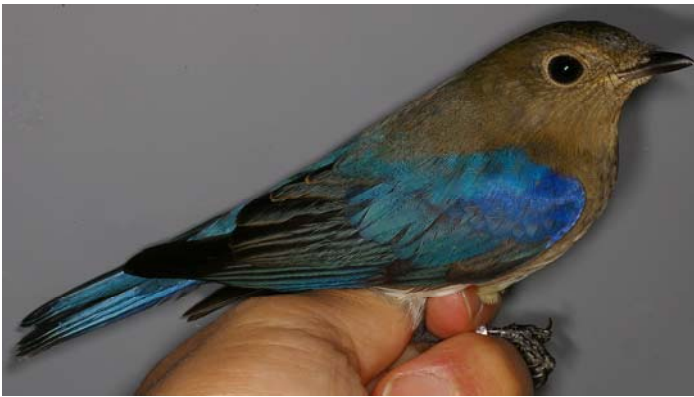
雄・幼羽 Male Juvenile



雄・幼羽 Male Juvenile

オオルリは、幼羽のうちから性の識別が可能で、雄は翼、雨覆、背、腰から尾が青い。

写真 1. 亜種オオルリ *Cyanoptila cyanomelana cyanomelana* 幼羽 Juvenile



雄・第1回冬羽 Male First Winter



雄・第1回冬羽 Male First Winte



雄・第1回冬羽 Male First Winter



雄・第1回冬羽 Male First Winter

尾羽は幼羽，第1回冬羽，第1回夏羽とも同一である。



雄・第1回冬羽 Male First Winter



雄・第1回夏羽 Male First Summer

雌雄とも生まれた年の第1回冬羽と翌年の第1回夏羽までは，幼羽が風切と雨覆の一部に残る。

写真2-1. 第1回冬羽と第1回夏羽 First Winter and First Summer



雌・第1回冬羽 Female First Winter



雌・第1回冬羽 Female First Winter



雌・第1回冬羽 Female First Winter

雌の下雨覆は、淡黄褐色で青色味はない。

写真2-2. 亜種オオルリ *Cyanoptila cyanomelana cyanomelana*



雄・成鳥 Adult Male



雄・成鳥 Adult Male

第2回冬羽以後の雄・成鳥の青色は濃く、下雨覆の色も第1回夏羽以前より濃くなる。

写真3. 亜種オオルリ *Cyanoptila cyanomelana cyanomelana*



雄・成鳥冬羽 Male・Adult Winter

雄・成鳥冬羽 Male・Adult Winter

雄・成鳥の尾羽は幼羽より濃く，先端が幼羽よりやや丸い。

写真 4. 亜種オオルリ *Cyanoptila cyanomelana cyanomelana*



雄・成鳥夏羽 Male Adult Summer

雌・成鳥夏羽 Female Adult Summer



雄・第1回冬羽 Male First Winter

雄・第1回冬羽 Male First Winter

亜種チヨウセンオオルリは、基亜種より淡色で雄の青色は緑色光沢がある。

第1回冬羽と雌の褐色部はやや灰色を帯びる。

写真5. 亜種チヨウセンオオルリ *Cyanoptila cyanomelana cumatilis*

VI キビタキ *Ficedula narcissina* の分布と亜種

キビタキには、夏鳥としてサハリン・南千島から北海道・本州・四国・九州に繁殖する基亜種キビタキ *F. n. narcissina* , 屋久島から南西諸島にかけて主に留鳥として分布する亜種リュウキュウキビタキ *F. n. owstoni* の2亜種が認められており (Vaurie, 1959; Watson, 1986; 日本鳥学会, 1974, 2000; 図 2), 基亜種キビタキの越冬地は中国南部, 海南島, インドシナ, ボルネオ, フィリピンである (Watson, 1986)。

これら2亜種のうち亜種リュウキュウキビタキは、屋久島と種子島の亜種ヤクシマキビタキ *F. n. jakuschima* と奄美大島から沖縄本島の亜種アマミキビタキ *F. n. shonis* および宮古島, 石垣島, 西表島の亜種リュウキュウキビタキ *F. n. owstoni* の3亜種に細分されていたが (Kuroda, 1925 ほか), 日本鳥学会 (1958) は亜種アマミキビタキを亜種ヤクシマキビタキに編入し, 亜種ヤクシマキビタキと亜種リュウキュウキビタキの2亜種とした。Vaurie (1959) 以後は, 上記のように南西諸島のキビタキは亜種リュウキュウキビタキとされている。トカラ列島にも, 亜種リュウキュウキビタキが夏鳥として分布しているが, 越冬地は不明である。基亜種キビタキは, 迷鳥としてオーストラリアの北東部から11月と12月に記録されている (Higgins, et al., 2006)。また, 福井県織田山で第1回冬羽で標識放鳥された個体が, 中国の広州で捕獲され, 飼い鳥として東京に輸入された回収例が知られている (茂田, 1989)。

夏鳥として中国北東部の河北省で繁殖するキムネキビタキ *F. elisae* は, 初め Weigold (1922) により単形種の新種として記載され, その後 Vaurie (1959) によりキビタキの亜種に編入された。分布が狭く正確な越冬地がよく知られておらず, 形態とさえずりがキビタキとは明らかに異なることから, 現在ではキムネキビタキをキビタキとは別種としている (Inskipp, et al., 1996 ほか)。キムネキビタキの越冬地としては, タイとマレー半島が知られている (Medway and Wells, 1976; Watson, 1986)。また, 2000年に中国の北京周辺に夏鳥としてキムネキビタキと同所的に分布する新種として *Ficedula beijingnica* が記載された (Zheng, et al., 2000)。この種はペキンキビタキという和名で話題になったものの, 最近になってキムネキビタキの第1回夏羽の雄であることが, さえずりの分析から確認された (Zhang, et al., 2006)。

キビタキ *Ficedula narcissina* に似ていてキビタキの亜種とされたこともあるマミジロキビタキ *Ficedula zanthopygia* は (日本鳥学会, 1958 ほか), 雄では眉斑が白く, 雌雄ともに翼に白斑があり, 最外三列風切の外縁が太く白い。マミジロキビタキは, 日本では少ない種であるが, 中国からの輸入が停止される前には, 日本国内のペットショップで売られていた。

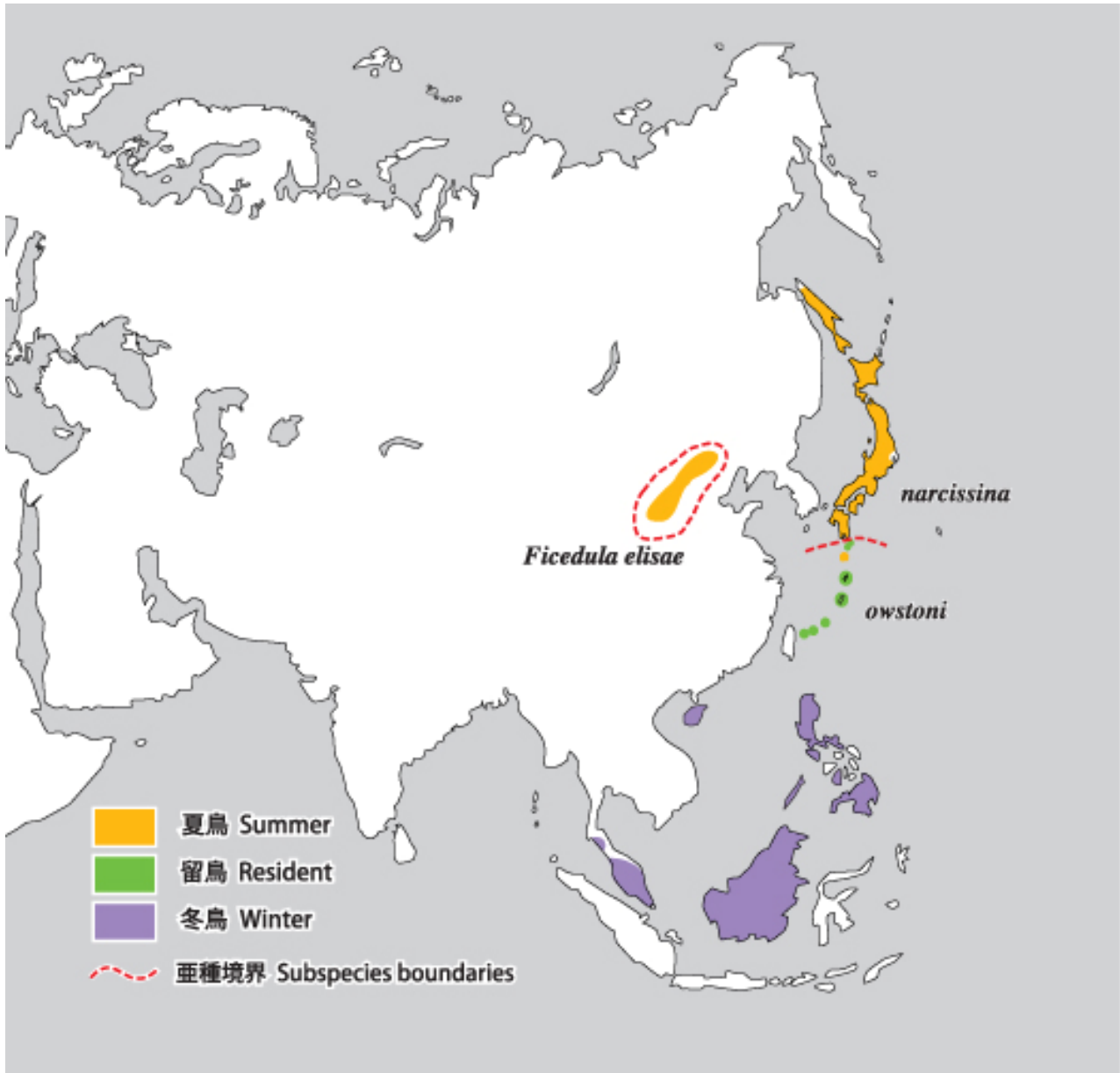


図2. キビタキ *Ficedula narcissina* の分布

キムネビタキ *Ficedula elisae* の分布域も合わせて示す。

VII キビタキの亜種の識別

基亜種キビタキは、亜種リュウキュウキビタキより大きく、前者の自然翼長は雄 76–80 mm，雌 69–77mm，後者の自然翼長は雄 67.5–75 mm，雌 63–72 mm である（山階，1941）。羽色については、雄では、基亜種キビタキに比べ亜種リュウキュウキビタキの小雨覆は灰色を帯び、黄色の眉斑が上嘴の鼻孔に達し、額で細くつながる傾向があり、上面がオリーブ色を帯びている。雄の下面の黄色は基亜種キビタキより黄色味があり、オレンジ色味が弱い。また、三列風切外弁の羽縁が白い

が、白色部は摩滅により消失しやすい。なお、基亜種キビタキの雄・成鳥冬羽は上面がわずかにオリーブ色または灰色を帯びているので、亜種リュウキュウキビタキとの識別に注意が必要である。

雌では、基亜種キビタキに比べ亜種リュウキュウキビタキでは、上面がよりオリーブ色を帯びており、下面により黄色味がある。また、雌・成鳥では、小雨覆がわずかに灰色を帯びている。

別種キムネビタキは、雌雄とも亜種リュウキュウキビタキより上面がいつそう緑色味が強く、下面の黄色はやや淡い。雄では小雨覆が灰色で眉斑は細く短く、基亜種キビタキと亜種リュウキュウキビタキのように眼の上を越えて長く伸びていない。小雨覆は亜種リュウキュウキビタキに似るが、雌雄とも、より灰色味が強い。三列風切の羽縁は亜種リュウキュウキビタキのように白い。キムネビタキは、分布が狭く、個体数が少ない鳥なので、中国でも飼われることはほとんどない。

VIII キビタキの性の識別

成鳥の性の識別は、2 亜種とも羽色が異なるので難しくない。基亜種キビタキの雄・成鳥は上面が黒く、眉斑は橙黄色で腮や喉、下面は橙黄色、下尾筒は淡黄色、脇、腹はオリーブ色を帯びた灰色である。小雨覆、中雨覆、大雨覆の内側に白斑があり、初列風切、次列風切、上尾筒、尾羽は黒色で、腰は橙黄色である。雌・成鳥は上面がオリーブ色がかった褐色で喉と腹の中央はオリーブ色がかった淡黄白色で、翼の白斑はないが、稀れに小さな白斑がある個体もある。本種では、幼羽と第1回冬羽の性の識別は難しいが、第1回冬羽で翼、腰、尾羽などに雄の特徴を示す個体もある。

亜種リュウキュウキビタキも同様であるが、雄・成鳥の上面の黒色はオリーブ色を帯び、三列風切外弁の羽縁が白い。幼羽と第1回冬羽は雌雄とも雌に類似し、性の識別は2 亜種とも難しい。第1回夏羽では基亜種キビタキの雄は、個体によりさまざまに上面、風切、雨覆、尾羽の一部に第1回冬羽と幼羽が残っているが、成鳥・夏羽に似る。第2回冬羽以後は成鳥・夏羽に類似する。亜種リュウキュウキビタキは、成鳥・夏羽になるのが遅く、第1回夏羽の雄では、同時期の基亜種キビタキより雌に似た羽色をしているが、雄では喉、胸、腰、眉斑に黄色があることで識別できる。亜種リュウキュウキビタキでは基亜種キビタキと異なり、第2回冬羽では成鳥・冬羽とはならない。

なお、屋久島とトカラ列島の亜種リュウキュウキビタキは、奄美諸島以南の亜種リュウキュウキビタキより、基亜種キビタキと同様に第1回夏羽が成鳥夏羽により似ているようであるが、これについては今後の研究が必要である。

IX キビタキの齢の識別

基亜種キビタキの齢の識別は、第1回冬羽と第1回夏羽までは部分換羽であり、幼羽が中雨覆と大雨覆、初列風切と次列風切、尾羽に残っているため難しくはない。幼羽から第1回冬羽への換羽

は体羽，小雨覆，中雨覆と大雨覆，三列風切の一部だけを換羽し，また，第1回冬羽から第1回夏羽への換羽も体羽，雨覆，三列風切，尾羽の一部を換羽する。約1年未満の第2回冬羽の換羽が完全に終了するまでは幼羽が中雨覆，大雨覆，初列風切と次列風切，尾羽の一部に残っているので年齢を識別することができる。亜種リュウキュウキビタキの年齢の識別も基亜種に準ずるが，基亜種より成鳥の羽色になるのに1年以上は遅く，幼羽から成鳥羽になるのに3年以上はかかる (Kuroda, 1925; 茂田, 1991)。



性不明・幼羽 Sex Unknown Juvenile

性不明・第1回冬羽 Sex Unknown First Winter

キビタキでは幼羽と第1回冬羽までは，性の識別はできない個体が多い。



雄・第1回冬羽 Male First Winter

雄・第1回冬羽 Male First Winter

第1回冬羽で，内側大雨覆と腰，尾羽の一部に雄の特徴が見られる個体もある。

写真6. 基亜種キビタキ *Ficedula narcissina narcissina*

幼羽と第1回冬羽 Juvenile and First Winter



雄・成鳥夏羽 Male・Adult Summer



雄・成鳥冬羽 Male・Adult Winter

冬羽は、黒色が羽縁が淡色なために灰色またはオリーブ色がかった。



雄・成鳥夏羽 Male・Adult Summer



雄・成鳥夏羽 Male・Adult Summer

雄・成鳥の下雨覆に黒色があることを示す。



雄・第1回夏羽 First Summer Male



雄・第1回夏羽 First Summer Male

写真7. 基亜種キビタキ *Ficedula narcissina narcissina*

雄・成鳥と第1回夏羽 Male Adult and First Summer



雌・成鳥夏羽 Female・Adult Summer

雌・成鳥夏羽 Female・Adult Summer

雌で翼に小さな白斑のある個体を示す。雌には、普通は翼に白斑はない。



性不明・第1回冬羽 Sex Unknown・First Winter

雄・第1回冬羽 First Winter Male

中雨覆，大雨覆の一部に幼羽が残っている。

腰が黄色を帯びる。幼羽の尾羽を示す。



雄・第1回冬羽 First Winter Male

雄・第1回夏羽 First Summer Male

第1回冬羽と第1回夏羽の下雨覆には、ほとんど黒色がないことを示す。

写真7. 基亜種キビタキ *Ficedula narcissina narcissina*



雄・成鳥夏羽 Male・Adult Summer

屋久島産の個体。



雄・第1回夏羽 Male・Adult First Summer

屋久島産の個体。尾羽はあまり黒くない。
中雨覆と外側大雨覆に幼羽が残っている。



雄・成鳥冬羽 Male・Adult Winter

西表島産の個体。



雄・成鳥冬羽 Male・Adult Winter

西表島産。小雨覆の羽縁は灰色である。

写真8. 亜種リュウキュウキビタキ *Ficedula narcissina owstoni*

亜種リュウキュウキビタキは、個体数が少なく、飼われるはほとんどない。



雌・第1冬羽 First Winter Female

西表島産の個体。基亜種と同様に第1冬羽で性が識別できる個体は少ない。

雄・第1冬羽 First Winter Male

西表島産の個体。中雨覆と大雨覆の一部に幼羽が残っている。

写真9. 亜種リュウキュウキビタキ *Ficedula narcissina owstoni* 第1冬羽 First Winter

X 注意

飼育下では、オオルリとキビタキは両種とも羽色が淡色になることが知られている。飼育下のオオルリの雄で、全身が正常より淡い個体や尾羽がわずかに青色を帯びた白色の個体が見られている。飼育下のキビタキでは基亜種の眉斑と下面の黄色が白っぽくなった個体が見られることがあり、個体によっては別種マミジロキビタキにやや似て見える。

これは飼育下においては、野生とは餌が異なるために換羽時の新羽の伸長に要する栄養が不足することに起因するものであることが考えられる。換羽は飼育下の鳥では野生の個体と比較して時期や回数が異なることが知られている。また、換羽後に生えた新羽が体羽でも風切や尾羽、雨覆でも幼羽にやや似ていることが稀にあるので、注意が必要である。さらに加齢にともなう虹彩の色の変化、および頭骨の骨化の進行速度についても正常より遅れたり、早まることもあり得るので、注意が必要である。

XI 参考文献

- Dement'ev, G.P. and Gladkov, N.A. (Eds.) 1954. *Birds of the Soviet Union*. Vol.5. Israel Program for Scientific Translations, Jerusalem. (Translated from Russian in 1970)
- Dickinson, E.C. (Editor) 2003. *The Howard & Moore Complete Checklist of the World*. 3rd Edition. Christopher Helm, London.
- Higgins, P.J., J.M. Peter and S.J. Cowling. (Eds.), 2006. *The Handbook of Australian, New Zealand & Antarctic Birds*. Vol. 7: Broadbill to Starlings. Oxford University Press, Melbourne.
- Inskipp, T., N. Lindsey and W. Duckworth. 1996. *An Annotated Checklist of the Birds of the Oriental Region*. Oriental Bird Club, Sandy, Bedfordshire.
- Kuroda, Nagamichi 1925. *A Contribution to the Knowledge of the Avifauna of the Riu Kiu Islands and Vicinity*. Published by the Author, Tokyo.
- Medway, L. and Wells, D. R. 1976. *The Birds of the Malay Peninsula*. Vol. 5. H.F. & G. Witherby, London.
- ネチャエフ, V. A. ・藤巻裕蔵 1994. 南千島鳥類目録 [国後, 択捉, 色丹, 歯舞]. 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- 日本鳥学会 (編) 1958. 日本鳥類目録 改訂 4 版. 日本鳥学会, 東京.
- _____ 1974. 日本鳥類目録 改訂 5 版. 学研, 東京.
- _____ 2000. 日本鳥類目録 改訂 6 版. 日本鳥学会, 帯広.
- 茂田良光 1989. 輸入されたキビタキ. やましな鳥研 News. No.3: 3.
- _____ 1991. 形態と識別 7. キビタキの亜種. *Birder* 5 (8) : 48 – 52.
- _____ 2003. 日本からの亜種チョウセンオオルリ *Cyanoptila cyanomelana cumatilis* の確実な初記録. 山階鳥研報 34: 309 – 313.
- Vaurie, C. 1959. *The Birds of the Palearctic Fauna. Passeriformes*. H.F. & G. Witherby, London.
- Watson, 1986. Genus *Ficedula* and Genus *Cyanoptila*. In Mayr, E. and Cottrell, G.W. (eds.) *Check-list of Birds of the World*. Vol.11, pp. 338 – 339, 354 - 355. Museum of Comparative Zoology, Cambridge, Massachusetts.
- Weigold, H. 1922. [*Muscicapa elisae* n. sp.] *Falco* 17 (1): 1 – 2.
- 山階芳麿 1941. 日本の鳥類と其生態. 第 2 卷. 岩波書店.
- Zheng, Guangmei *et al.* 2000. A new species of Flycatcher (*Ficedula*) from China (Aves: Passeriformes: Passeriformes: Muscicapidae). *J. Beijing Normal Univ., (Nat. Sci.)* 36 (3): 405 – 409.
- Zhang, Yan-Yun, *et al.* 2006. Acoustic difference of Narcissus Flycatcher complex. *Acta Zoologica Sinica* 52 (4) : 648 – 654.

オオルリとキビタキの識別マニュアル

平成21年3月

発行者：環境省 自然環境局野生生物課鳥獣保護業務室

制作者：財団法人 山階鳥類研究所